

知の先達たちに聞く (12)

——鈴木董先生をお迎えして——

2016年5月16日(火)、鈴木董先生(東京大学名誉教授)を京都大学にお招きして、「知の先達たちに聞く——鈴木董先生をお迎えして——」と題して講演会を開催した。

鈴木先生は、オスマン史研究をご専門とされ、日本におけるトルコ研究の草分けの一人として、数々の著名な実績を上げておられる。代表的なご著書として、『オスマン帝国——オスマン帝国における「柔らかな専制」』(講談社現代新書)、『イスラムの家からバベルの塔へ——オスマン帝国における諸民族の統合と共存』(リプロポート)、『オスマン帝国とイスラム世界』(東京大学出版会)などを挙げる事ができる。

「私のオスマン史研究の回想——私の比較史への道の一段階——」と題されたこの講演会では、オスマン史研究をどのように進めてこられたかについての詳細なお話とともに、今後の比較史への壮大な展望をもお話しいただき、先生のご研究と学識の一端をお伺いすることができた。この記事はそうした貴重な講演会の模様を再現したものである。

以下、講演会記録に移る前に、鈴木先生の略歴を記しておきたい。先生のご業績については、講演会記録の後に記載した。

鈴木董先生——略歴——

生年月日 1947年9月19日

< 学歴 >

- 1960年3月 藤沢市立大道小学校卒業
- 1963年3月 藤沢市立第一中学校卒業
- 1966年3月 神奈川県立湘南高等学校卒業
- 1966年4月 東京大学文科一類入学
- 1968年4月 東京大学法学部第三類(政治学コース)進学
- 1970年3月 同 卒業
- 1970年4月 東京大学大学院法学政治学研究科政治専門課程修士課程進学
- 1972年3月 同 修了 法学修士号取得
- 1972年4月 東京大学大学院法学政治学研究科政治専門課程博士課程進学
- 1972年9月 トルコ国奨学金留学生としてトルコ国立イスタンブル大学文学部留学
- 1975年9月 帰国 復学
- 1982年9月 東京大学大学院法学政治学研究科政治専門課程博士課程修了 法学博士号取得

< 職歴 >

- 1979年4月 日本学術振興会奨励研究員
- 1980年4月 立教大学法学部助手
- 1982年3月 同 退職

- 1982年4月 千葉大学法経学部、同人文学部、同教養部、東海大学文学部、専修大学法学部等非常勤講師
1983年4月 東京大学東洋文化研究所助教授
1991年7月 同 教授
2012年3月 定年により退職
2012年5月 東京大学名誉教授

< 受賞・名誉学位 >

- 2008年 トルコ国財団法人トルコ文化奉仕財団トルコ世界トルコ言語功労賞受賞
2009年 キルギス・トルコ・マナス大学(在キルギス共和国)より名誉博士号を授与される
2014年 トルコ共和国功労勲章受勲
2015年 トルコ歴史学協会名誉会員選任

私のオスマン史研究の回想——私の比較史への道の第一段階

鈴木 このシリーズは「知の先達たちに聞く」というのですが、私自身は先達などではなくて、まだ若手研究者のつもりでいます。タイトルに「第一段階」と付けたゆえんです。

若い頃、イスタンブルでどういう人たちと接触があって、どういう暮らしをしていたかということは、トルコ語をお読みになる方は、*Türk Edebiyatı* (『トルコ文学』)の466号に出ているインタビュー(“İstanbul bana Tokyo’dan daha yakın” [イスタンブルは私には東京より近い])を読んでいただければ、かなりわかると思います。



I 何故オスマン史研究を始めたのか？

まず、なぜオスマン史研究を始めたのかという部分から始めさせていただきます。オスマン史研究を本格的に始めたのは修士課程に入ってからなので、今年でちょうど48年になるかと思います。ですから、かなり長いこと手がけているのは確かです。なぜオスマン史研究を始めたかという、トルコ研究をやる人というのは、「トルコが好きになったからトルコのことを」というタイプと、そうでないタイプとがありますが、私の場合はトルコが好きだから始めたのではなくて、かなり不純なところがあって、比較の対象としておもしろそうだったので始めたというのが本当のところでは。

もともと私は子どもの頃は、自然界を対象にしたナチュラル・ヒストリー、博物学のほうに興味がありました。ただ、昆虫採集とかを始めるより前は、母が嫁入り道具で平凡社の『世界大百科事典』の昭和戦前期の初版本を持ってきていて、あれを何遍も頭から暇にあかせて見ていました。ですから、人文的なものにも興味がないわけではなくて、その興味もどちらかというと、博物学的興味からそういうものを見るところがあったのは確かです。そのあとは昆虫とか石とか化石とかに興味がありまして、とくに小学校の頃は昆虫採集に熱心で、チョウについては、南関東のチョウだった